

不自由展中止 憲法論争に

「市長発言は違憲疑い」 大村知事 「21条には一定の制約」 河村市長

愛知県で開催中の国際芸術祭「あいちトリエンナーレ2019」の企画展「表現の不自由展・その後」が中止になった問題で、愛知県の河村たかし名古屋市長を「検閲と取られても仕方ない。(表現の自由を定めた)憲法21条違反の疑いが極めて濃厚」と厳しく批判。河村氏は「表現の自由には一定の制約がある」と反論し、主催する両自治体のトップによる憲法論争に発展した。

企画展は一日に始まり、旧日本軍の慰安婦を象徴する「平和の少女像」などを展示。河村氏が二日に「日本国民の心を踏みにじるものだ」などとして中止を求め、文書を大村氏宛てに提出した。

大村氏は五日の会見で「気に入らない表現であっても受け止めるのが憲法の原則だ。税金を使った芸術祭だからこそ、表現の自由

を守らないといけない」と強調した。

一方、河村氏は五日の会見で「数十万人のアジア女性を強制連行したのは事実でない」とあらためて主張。少女像展示により「国や県、市が(韓国側の主張を)認めた」と誤解を受け、(国益を害する)と規制を正当化した。大村氏の「事後検閲に当たる」との批判に「それなら、あの展示が良

いのだと堂々と云って下さい」と反論した。

企画展には抗議のメールなどが殺到し、芸術祭実行委員会は「テロや脅迫ともとれる抗議があり、安全な運営が危ぶまれる」として、二日いっぱいでも中止。

大村氏は、五日朝にも「ガソリンをまきます」などと書かれた脅迫メールが

県に届き、県警に相談したことを明らかにした。県によると、展示に関する抗議や問い合わせは四日までに電話が八百件、メールが二千四百五十件。また、インターネット上で企画展の開催費用が芸術祭の全体予算である十億円に上ると誤って伝えられているとも指摘し、企画展のみの費用は四

百二十万円と説明した。

河村氏自身も主催する実行委員会の会長代行。事前に展示内容は知らなかったといい、「こんなことをやるとは思っていなかった」と釈明。芸術監督にジャーナリストの津田大介さんが就任した経緯や少女像展示の経緯を調べるように指示したという。

「河村氏確認怠った」松井・大阪市長

松井一郎大阪市長は五日、「あいちトリエンナーレ2019」の「平和の少女像」などの展示が中止され、河村たかし名古屋市長が展示を決めた関係者に謝罪を求めたことに関し「(河村氏も)前もつてのチェックを怠ったということだと思つて述べ疑問を呈した。松井氏は自身が河村氏に展示が問題だと伝えたと言明。「僕が連絡を取ったとき、(展示を)知らなかったと言っていた。ちよっと河村さんの不手際なのかなと思つ」と話した。

公権力で「やめる」はアウト / 知事の中止判断も問題

憲法学者からも、河村たかし市長による企画展中止の要請を「違憲の疑い」とする大村秀章知事の見方を支持する声が出て

憲法学者ら見解

由の下で「(展示は)おかし」と徹底的に声を上げて、追及するべきだった」と話した。

武蔵野美術大の志田陽子教授も、「憲法上の表現の自由保障に照らせば、公権力が表現を取捨選択することは自制するべきだ」との立場。ただ、少女像などの展示中止を判断した大村氏に對しても「市長の発言を問題視するのであれば、展示継続が自

然だ。展示の中止で脅迫などの問題の解決を図ることは、やはり問題がある」と疑問を呈した。

憲法第二一条
集会、結社及び言論、出版その他一切の表現の自由は、これを保障する

検閲は、これをしてはならない。通信の秘密は、これを侵し

仕方がない」と指摘。「言論の自

検閲は、これをしてはならない。通信の秘密は、これを侵し